

# 松禪寺報

<http://syozen.com>

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

第41号

発行 平成22年7月21日

## 本当の幸せとは

亡き人と心を通わせ、今ある命に感謝するお盆

七月の薬師祭が終わると、ようやく梅雨も明け夏本番を迎えました。八月、お盆もすぐ目の前です。何か気ぜわしさも感じるこの頃です。薬師祭でのコンサー

目覚めれば読経、掃除、食事…、一日の決まり切った暮らしの流れ、時には退屈とも感じたりしますが、暮らしとはそんなことの繰

り返しですから、きのうと同じようにきょうも暮らすことができるというのは、大変幸せなことであるということに気づかされます。健康であると息をしていることも当たり前のように感じてしまうこともありますが、母の息が次第に弱くなって止まったその時こそ、日常の暮らしが終わった瞬間でもありました。

トの折、境内で盛んに鳴いていたウグイスにお気づきの人も多くあったことと思います。普段は静かな山寺の境内に、多くの人が出入りし、しかも本堂からは音楽が流れ、ウグイスはきつと自分の縄張りに敵が侵入してきたと警戒していたのでしよう。翌日のウグイスは、また穏やかな声でさえずっていましたから。

日常のありふれた暮らしの流れが、ある日突然変わるがあります。母が息を引き取ったその時から、いつもの暮らしの流れが一変し、しばらくは元に戻せない状態が続きました。朝、



▲「涼やかな微笑み」～ネパール ルンビニ～

つい楽しいこと、うれしくなることを日常の暮らしのなかに見いだそうとしがちですが、本当の幸せとは、日常のごくありふれた暮らしの中こそ存在するものだと思います。でも、楽しいことも欲しい、そうオマケも必要だとぐらいに感じましょうか。病気の一つや二つを伴いながらも、こうやって今日もまたこの日を迎えられたことを、お互いに喜び合いたいと思います。

お盆は、ご先祖様とふれあい、亡き人と心を通わせる時です。いただいた、受け継いだ尊い命に手を合わせましょう。

# 薬師祭

## “ごころの歌に” 涙する人も

### コンサートやバザーなど人が出合い行き交う栗尾薬師堂の大祭

今年も「薬師祭」(主催・栗尾ふるさと委員会)が巡ってきました。母の死から今年では中止ではないか、いえこれは仏事ですからむしろ母のためにもやらねばと思ひ、栗尾ふるさと委員会の皆さんをはじめ近隣皆さんのご協力で無事行うことができました。

天気はあいにく朝から雨と風に見舞われ、法要の時間が近づくなか、お参りの人があるのか心配になつてしまいました。それでも、いつものとおり写経に励む人もあり、開会時間を迎える頃には傘をさしながら境内へ上がつて来られる人がみえホツとしました。

今年が高橋地区活性化委員会の皆さんが、冷やし抹茶やかき氷、クッキーなどのバザーをして



▲薬師祭の餅は参拝者へ配られました

くだけきました。さつきかき氷を食べる子どもたちの姿がチラホラ、家族連れで冷やし抹茶などを味わう姿も見られ、お寺のあちらこちらでほのぼのとした情景が見られました。

コンサートは、和歌山県・白浜町から来られた聖福寺ご住職・関守研吾和尚様と、与謝野町岩滝から来



▲関守師の歌と法話に涙する人も

れた「悠家」(ゆうけ)さんが出演。お二人とも優しい心が歌に表現され、しばしその世界に引き込まれた感じがしました。関守和尚様は、日本の四季を基盤に、そ

ちられ、何とも巧みな演出に皆さんも感心されていたようです。悠家さんは、平成20年の薬師祭にマジヨラムというバンドで来られ、今年はソロですが2回目のコンサートになりました。ご自身のオリジナルの曲を歌われ、ギターの激しく、あるいは優しく奏でる曲に、悠家さんの優しく透明なほど

ここに営まれる人間模様、自然の妙、それらを唱歌や童謡によつて巧みに表現され、今ある命のありがたさ、素晴らしいさを歌と法話で綴られました。最後は、御詠歌で締めく

高橋地区活性化委員会のバザーも大盛況←  
素直な心が歌になり、しばし時を忘れて聴き入りました。外は梅雨、境内にこだます鳥のさえずりと子どもたちの声、本堂に響く優しい歌声、まさに雨に洗われ、心が清らかなるコンサートでした。

最後は、恒例の餅まき、と言いたいところですが、雨ですから参拝者皆さんに公平に配っていたできませんでした。栗尾ふるさと委員会の皆さん、村の有志の皆さんのお陰で、今年も無事に薬師祭を開くことができました。昨日の餅つき、準備から今日の本番まで、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



▲悠家さんは情熱と優しい心を歌にしたオリジナル曲で聴衆を魅了しました



# 臨濟宗妙心寺派山陰東教区主催

# ごしんけじゅかいえ 御親化授戒会

またとないこの法要にぜひご参加ください

妙心寺派山陰東教区では、来る11月21日(日)と22日(月)、和田山町竹田の吉祥山観音寺さまにおいて、御親化授戒会をおつめいたします。

御親化授戒会とは、妙心寺派管長自らがお出でになつて授戒会を行われるものです。

「お授戒」とは、私たちが過去において、知らず知らずのちにおかした罪や過ちを懺悔して、人間として正しく、本当の幸せを自覚し、生き甲斐と喜びに満ちた人生を送るために、仏教徒としての生き方を習得し、お釈迦様のお弟子に加えていただく儀式です。

お釈迦様は、私たちに人生を送る上での道しるべ、すなわち「戒」をお示しく下さいました。

「授戒会」はその「戒」を授かり、仏の道を歩む生活習慣を身につけ

るものです。

## 妙心寺派管長様が大導師に

授戒会では、戒を受ける参加者を「戒徒」と呼びます。そして、戒徒に戒を授けてくださる大導師を「戒師」とお呼びします。

このたびの授戒会では、妙心寺派管長 猊下・河野太通老大師様が直々に戒師をお務めくださいます。

## 戒徒(参加者)は

### 法要で何をするの

戒師様などのお導きで加行礼拝を行います。加行とは、最後に登壇して管長様より戒脈をいただき、仏弟子となるための準備のご修行のことです。すなわち、過去・現在・未来の三世にわたる、あらゆる仏さまのお名前をお唱え

しながら、数多くの礼拝をいたします。この礼拝によって、私たちが永年にわたって作り溜まつてきたたくさんのあやまちや、罪科を消し、身も心も清らかになつて参ります。

## 本戒と因縁戒について

お授戒会には、本戒と因縁戒(塔婆供養)があります。

本戒とは、授戒会に参加して加行礼拝の行をつとめ、戒師様より直接「戒脈」(二字の戒名)をいただくものです。

因縁戒(先祖供養)とは、この滅多にない良き縁により、ご先祖様の追善供養をして回向することを行います。これには、ご先祖さまの塔婆供養の申込みにてお勤めさせていただくもので、授戒会当日の参加は必要ありません。

## 参加には申込金が必要です

授戒会申込金

**本戒 金2万円也**(1名につき)

※管長さまより戒脈が授与されるほか、記念品、当日の昼食代などが含まれます。

**因縁戒 金3千円也**(一霊)

※塔婆、記念品代等が含まれます

## 申込み締切りは

参加申込みの締切りは、**9月15日(水)**です。参加ご希望の方は、別途配布しています申込書に必要事項を記入のうえ、申込金を添えて松禪寺まで届けてください。

## 参加日が決まっています

松禪寺の檀家さんが参加できるのは、**11月21日(日)**の一日のみです。

## 会場は観音寺さまです



平成22年

# 施餓鬼会

【日時】8月7日(土)  
午前10時より



施餓鬼会は、お釈迦様の十大弟子のお一人、阿難尊者の故事により、飲食供養の功德により亡者を救う行事として起こったものです。有縁はもとより、無縁の衆生に対しても供養する法要です。今年も多数の和尚様により法要を執り行います。初盆の精霊だけではなく、ご先祖様を始め、志す精霊にご供養することによって施主皆様の現世安穩が得られるといわれています。ぜひ、ご家族お揃いでお参りください。なお、施餓鬼会の日程と今年初盆を迎えられる方は下表のとおりです。

No.	喪主(敬称略)	住所	続柄	故人名	命日
1	山門大施餓鬼・添施餓鬼				
2	柴田 巧	栗尾	父	寛	平成21年11月25日
3	井上たみ枝	佐々木	夫	肇	平成21年9月18日
	樫本 輝雄	佐々木	母	はつ	平成22年6月15日
4	故・水縄富恵	栗尾	一	富恵	平成21年8月26日
	松本 文夫	栗尾	父	要之助	平成21年9月12日
	森下 笑子	久畑	夫	徳太郎	平成22年3月27日
5	松禪寺先住寺庭			久子	平成22年6月27日
6	鶏魂供養				

## 平成22年 お盆参りの日程

棚経実施日	地 域
8月9日(月)	清滝→本城→柴地→山根→貝田
8月10日(火)	久畑→石原→佐田→大貝→平田→佐々木
8月11日(水)	出石町→南尾
8月12日(木)	豊岡市→福知山市→岩滝
8月13日(金)	西谷

## 棚経 たなぎょう

まもなくお盆を迎えます。お盆は、普段から何も催促なさらぬご先祖さまとの語らいの時でもあります。8月13日が迎え火にあたり、16日が送り火です。お墓をきれいに掃除して、ご家庭では仏壇を丹念に掃除して、お花、ろうそ

く、お線香、果物、お菓子、季節の野菜などを供えます。お寺からは、9日から13日の間、棚経といつて各檀家を廻って回向いたします。上表の日程で参る予定ですが、諸般の都合から急遽変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。朝から廻りはじめますが、後半は午後になります。

## お世話になりました



松禪寺先住  
寺庭・高橋久  
子儀 平成22  
年6月27日に

満85歳にて逝去いたしました。昭和30年5月に故・瑞峰和尚の継室として松禪寺に入りましてから今日まで、檀信徒皆様には大変お世話になり有り難うございました。6月29日の通夜、翌30日の葬儀の際にはご繁忙にも拘わらず遠路お参りご焼香下さり、また過分なるお供え等を賜りご芳情の程誠に有り難く深謝申し上げます。葬儀では何かと不行届きがあったかと存じますが、何卒ご寛容の程お願い申し上げます。 合掌